

# MEIJIMURA

明治村だより  
Vol.66 2011 Winter

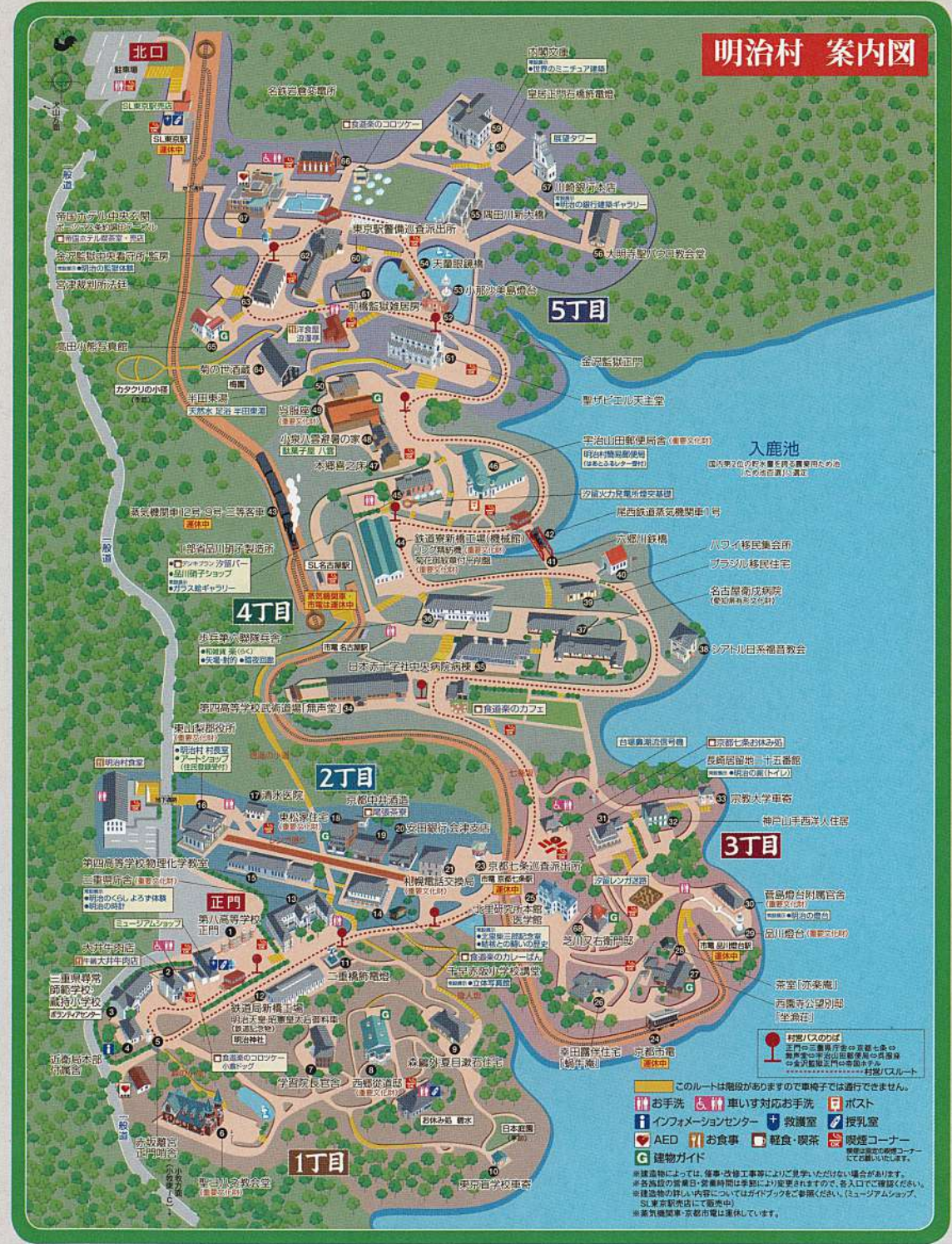


学習院長 官舎の歴史 明治村移築前史  
長佐古 美奈子 ..... 2

学習院長 官舎 修理工事記念特別展  
1887 ベルリンの出会い ..... 4

冬の催しもの ..... 5

A La Meiji-mura ..... 6



**金沢監獄正門**  
建設年 明治40(1907)年  
明治時代の門に特徴的な煉瓦造りに帯状の石を配したものである。左右に2階建の監視塔を建て、中央にアーチ型の主出入口とその脇に脇出入口が設けられている。全ての開口部に鉄格子がはめ込まれるなど、いかめしい印象を与えている。



**歩兵第六聯隊兵舎**  
建設年 明治6(1873)年  
名古屋城内に設置された陸軍の兵舎。江戸幕府が陸軍の範をフランスに取ったことから、明治政府もそれを引継ぎ、陸軍の制度、兵舎建設などにその影響をみることが出来る。

2011年 12月							2012年 1月							2012年 2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29			
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31											

カレンダーの ■ が休村日です

平成 23年 12月 12日発行  
「明治村だより」第66号(平成23年冬)  
発行 博物館明治村  
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
電話 (0568) 67-0314  
http://www.meijimura.com  
製作 株式会社DNP中部

「明治村だより」第67号発行のお知らせ  
発行時期 平成24年3月中旬(予定)  
申込方法 「明治村だより」第67号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙 近岡善次郎  
近岡善次郎  
大正3(1914)年~平成19(2007)年  
山形県新庄市出身。「一水会」所属。日本各地の300ヶ所以上を回って「明治の西洋館」を描いた。博物館明治村にはそのうち100ヶ所が2回にわたって寄贈された。

# 学習院長官舎の歴史

## 明治村移築前史

学習院大学史料館学芸員

長佐古 美奈子

### 学習院の歴史と校地の変遷

明治維新の後、明治二（一八六九）年版籍奉還が行われ、大名と公家に華族の称が与えられました。華族は皇室の藩屏となることが求められたため、華族会館は明治十（一八七七）年華族子女のための教育機関「学習院」を創立しました。

開校の場所は東京神田錦町で、その時造られた門は現在、新宿区戸山の学習院女子中・高等科に移築され、重要文化財となっています。その後、明治十七年より学習院は宮内省所管の学校となり、校舎も虎ノ門、四谷と変遷し、明治四十一年に東京府北豊島郡高田村（現豊島区目白）へと移転します。

学習院は昭和二十二（一九四七）年に私立学校となりますが、校舎群はそのまま使用したため、現在まで歴史的建造物が残ることとなりました。

### 目白の学習院

学習院目白キャンパスの設計は学校建築の名手として名高い文部省技師の久留正道が行いました。宮内省所管であった学習院の設計を文部省技師に依頼した経緯は定かではありませんが、移転直前の学習院長は第九代山口銳之助で、久留正道と共に学校建築の設計を行っていた山口半六の弟にあたります。このような関係から久留に設計が依頼されたのかもしれませんが、久留による目白キ

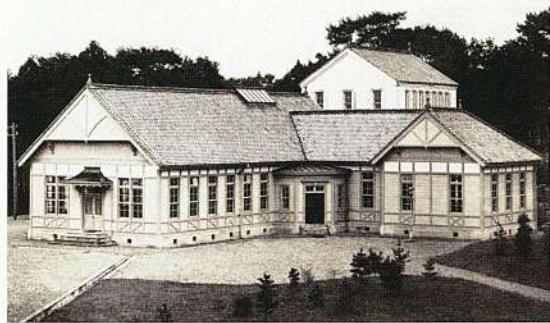


写真1 大正初年の図書館



写真2 旧図書館（現北別館）現況

ャンパスのプランは正門を入って右側（西側）には教育ゾーンとして校舎群が配置され、左側（東側）には生活ゾーンとして寄宿舎群が配置されました（図1）。

翌四十二年に現在史料館（北別館）として使用されている旧図書館（写真1、2）と院長官舎が完成し、目白キャンパス全体の建物が完成しました。院長官舎は生活ゾーンの建物として正門を入って直ぐ左側に建築されました。

### 乃木希典と院長官舎

学習院が目白にキャンパスを移した時の院長は第十代乃木希典です。陸軍大将としても有名な乃木が院長に就任したのは、明治天皇の勅命でした。

の部活動などに活用されています。

乃木が総寮部に起居していたことから、院長官舎が明治四十二年に完成した後、建物は皇族学生用の寄宿舎（別寮）として使用されます。山階宮芳麿王、賀陽宮恒憲王、久邇宮朝融王などの皇族方と「学友」とよばれる学生達（写真5）が起居しました。その後大正二年に皇族専用の寮（現東別館）が竣工するまでの四年間は院長官舎は皇族寮であったわけでは

### その後の院長官舎

皇族寮としての役目を終えた官舎はその後、文字通り院長官舎として使用されることとなります。その後の院長で院長官舎に住んだのは第

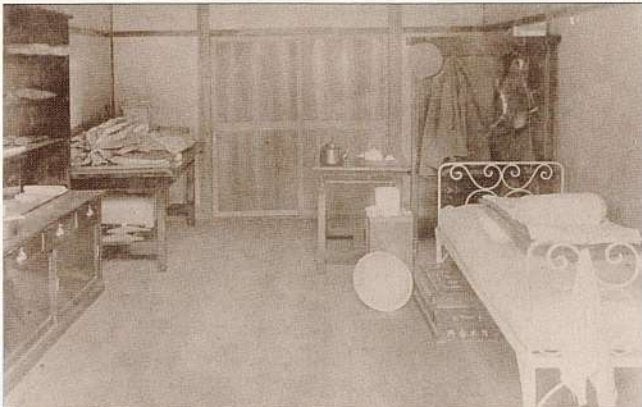


写真3 総寮部内 乃木院長の居室



写真4 乃木館現況

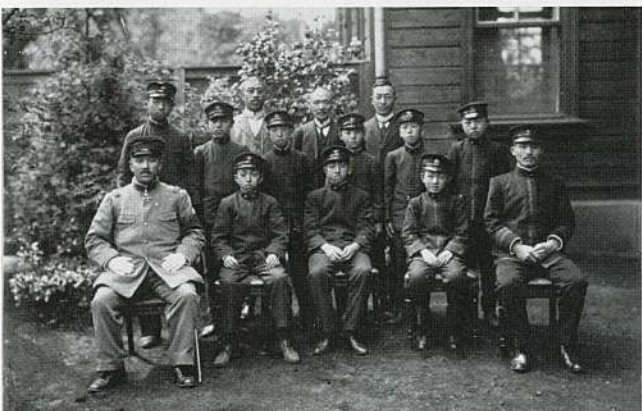


写真5 大正2年別寮前の山階宮芳麿王、賀陽宮恒憲王、久邇宮朝融王（前列左2人目より）

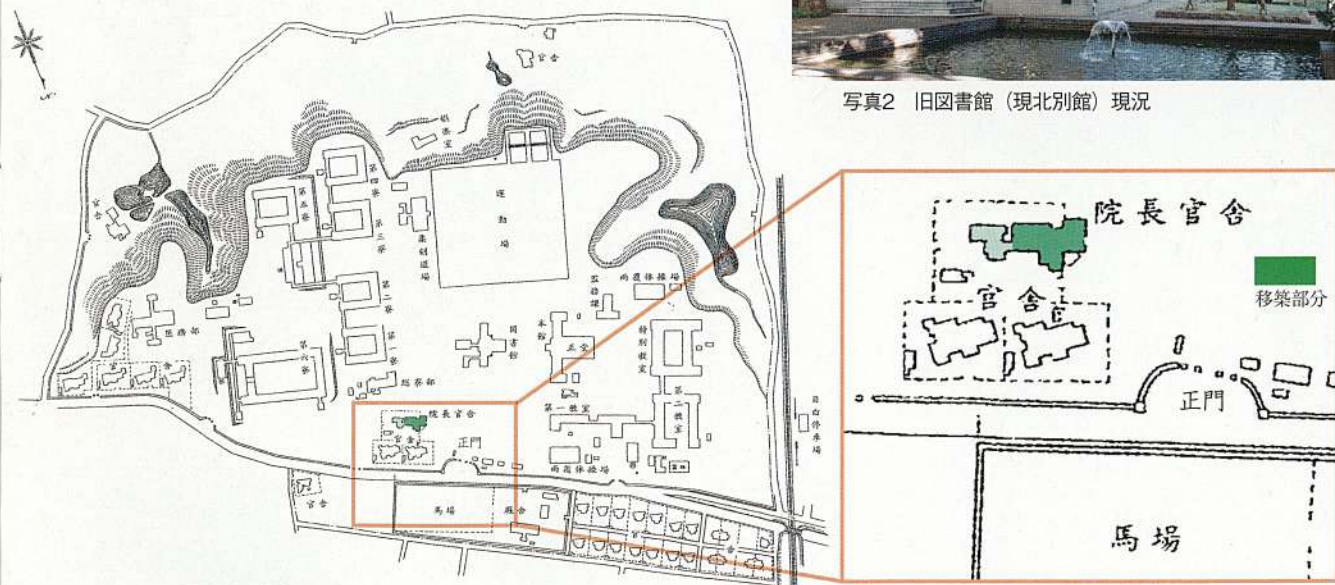


図1 明治43年学習院目白校地地図

十二代北條時敬（大正六年～九年）、第十四代福原録二郎（大正十一年～昭和四年）、第十五代荒木寅三郎（昭和四年～十二年）、第十七代山梨勝之進（昭和十四年～二十一年）と第十八代安倍能成（昭和二十一年～四十一年）（写真6、7）です。この安倍院長在任中の昭和三十七年に院長官舎は解体され、明治村へ移築保存されることになったわけでは、明治村への移築保存の経緯については現在調査中です。調査の結果についてはまたいずれ御報告したいと考えております。

（ながさこ みなこ）

※1 皇族が学習院へ入学することが定められたのは大正十五年皇族就学令が発令されてからである。「第一条 皇族男女ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外学習院又ハ女子学習院ニ於テ就学セシム」  
 ※2 学習院は明治十七年に宮内省所管となってからは全寮制であったが、火事、地震などによる校舎の消失もあり、全寮制度は断続的となっていた。

# ぬくもりと出会う 冬の明治村

12/10(土)～H24 2/19(日)

※休村日は裏表紙の休村日カレンダーをご覧ください。

## ★クリスマスイベント

### ★クリスマスデコレーション

(聖ザビエル天主堂、聖ヨハネ教会堂、帝国ホテル中央玄関ほか)  
12月25日(日)まで  
歴史的建造物がクリスマスの装いに。  
帝国ホテル中央玄関では、参加型デコレーション「メッセージ・ツリー」を開催します。

### ★クリスマスミサ (聖ザビエル天主堂)

12月23日(祝) 11:00～

### ★教会クリスマスコンサート (聖ザビエル天主堂)

12月18日(日)、25日(日)  
13:00～/14:30～  
出演:増野友香(ソプラノ)他  
12月23日(祝)  
13:30～/14:30～  
出演:コンプリオ



### ★クリスマス演奏会 (聖ザビエル天主堂)

12月24日(土) 13:00～  
出演:師勝はなの樹幼稚園

### ★キャンドルサービス (聖ザビエル天主堂) (参加費 300円)

12月24日(土) 10:00～11:30  
14:00～15:30  
12月25日(日) 10:00～11:30

## 特別展

### 新春 郷土のだるま展

12月10日(土)～1月29日(日)

■会場 東山梨郡役所1階  
日本各地のだるまを一同にご紹介します。



### 明治村と子規・真之・好古

～1月15日(日) ■会場 三重県庁舎1階 特別展示室  
■協力 松山市 松山市立子規記念博物館

正岡子規と彼に連なる人々、そして彼らと明治村の建物との意外なつながり。子規の人間性の広がりとともに、彼らの生きた時代を文学作品や写真などでご紹介いたします。



ユニフォームを着た子規 (明治23年)

### 学習院長 官舎 修理工事竣工記念

### 1887 ベルリンの出会い 学習院長 乃木希典と森鷗外

1月21日(土)～6月24日(日) ■会場 三重県庁舎1階 特別展示室

乃木希典は陸軍少将として1887(明治20)年ベルリンへ留学しました。そこで出会ったのが陸軍軍医・森鷗外(林太郎)です。二人のベルリン滞在中の資料ははじめ、ベルリン滞在中の資料は彼らとのその後に与えた影響や彼らを取り巻く人々、乃木が院長として学習院で教育にあたった様子、そして乃木の死が鷗外の文学作品に与えた影響などをご紹介します。

### ガイドツアー「帝国ホテル中央玄関を廻る」

①12月23日(祝)・②1月9日(祝)・③2月12日(日) 時間はいずれも13:00～  
普段は非公開の3階部分を特別公開、ご案内します(参加費500円、各回15名)。  
申込受付は ①12月9日～、②12月27日～、③1月31日～。

※各イベントは荒天時、中止となることがあります。悪しからずご了承ください。  
※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

http://www.meijimura.com または 0568-67-0314

# 1887 ベルリンの出会い

## 学習院長 乃木希典と森鷗外

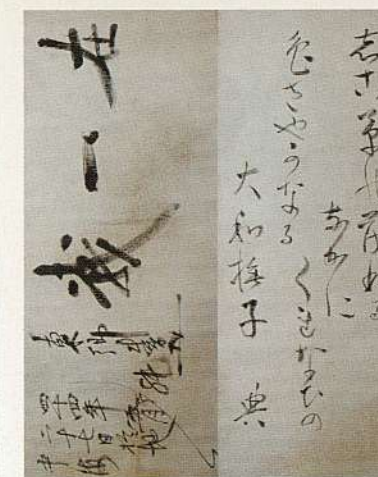


森鷗外



乃木希典

明治時代には数多くの日本人が海外へ渡り、欧米の学問・技術など多くを学び、日本の近代化に貢献しました。  
そんな中でも、一八八七(明治二十)年に、後に学習院長となる乃木希典と森鷗外(林太郎)が、ベルリンで出会っていることはあまり知られていません。知られざる二人の交友関係、二人を取り巻く人間模様―細菌学者北里柴三郎、ドイツ公使館へ外交官として赴任してきた西園寺公望、後に日本赤十字社長となる石黒忠恵など―を紹介しましょう。  
乃木希典は長府(現在の山口県下関)藩士の子として、嘉永二(一八四九)年、東京の長府藩邸で生まれました。幼名は無入。十歳の時に家族とともに長府へ戻り、馬術、弓術、礼法などを学ぶかたわら、両親から「武人」となるべく厳しく育てられました。彼は生来どちらかというと「武」ではなく「文」を好んだといわれています。乃木は長府の集童場、その後、萩の藩校明倫館で学びました。慶應二(一八六六)年江戸幕府の第二次長州征伐に対抗するため、高杉晋作の呼びかけにより「奇兵隊」が、故郷長府には「報国隊」などの諸隊が結成され、乃木は山縣有朋指揮のもとで幕府と戦いました。明治四(一八七二)年に上京し、陸軍少佐に任官された後、父希次の一文字を取って「希典」と改名しました。  
陸軍入隊後の乃木



乃木希典(右)、東郷平八郎(左) 揮毫の帯



森鷗外が編集刊行した雑誌「しがらみ草紙」

は「紅灯緑酒の人」と評されることもありましたが、長年の夢だったドイツ留学から戻った後は、かつての彼の姿を想像することができないほど変化したといわれています。彼は明治二十年一月、日本を発ち、同じ陸軍少将の川上操六とともにベルリンへ向かい、当時ヨーロッパの勢力地図を塗り替えていたドイツ陸軍で学びます。そこで出会ったのが陸軍軍医として先に留学を果たしていた森林太郎(鷗外)です。  
森鷗外は石見(現在の島根県)の藩医の子として生まれ、父親とともに十歳で東京に出、医学を学びます。彼は東京帝国大学医学部を卒業すると、陸軍に軍医として入隊し、希望が叶い、ドイツへの留学を果たします。ライプツヒヒ、ドレスデン・ミュンヘンそしてベルリンとドイツ国内を転々としながら、当時最先端を行く医者や軍医のもとで学びます。  
森鷗外の記した「独逸日記」には、鷗外の目に映った当時のドイツの繁栄、そしてそこに集う日本人の様子が克明に描かれています。乃木に初めて会った際の印象を「長身巨頭沈黙厳格の人なり」と鷗外は記していますが、後に明治天皇の後を追いつ、乃木夫妻が自刃したことをテーマに「興津弥五右衛門の遺書」を執筆するようになるなどは想像だにしていなかったのではないのでしょうか。



学習院長 官舎

この展覧会では、鷗外の「独逸日記」や石黒忠恵の遺した書簡などを基礎資料に彼らが大きに刺激を受けたドイツ生活、そして乃木が晩年仰せつかった「学習院長」という役割の中で、後進の育成にあたった様子をご紹介します。  
※敬称略

## ●初春イベント

### 日本各地の門松・しめ縄めぐり

(第八高等学校正門・東松家住宅・京都中井酒造・宇治山田郵便局舎・高田小熊写真館ほか)  
1月1日(祝)～29日(日)  
※門松は1月15日(日)まで  
村内各所の歴史的建造物に、郷土色豊かなお正月飾りをいたします。

### 甘酒ふるまい (呉服座前)

1月1日(祝) 13:00～  
(協力:小弓鶴酒造)

### 宿題しましよ 書初道場 (お休み処「碧水」)

1月1日(祝)～4日(水) 13:00～15:00

### 祝餅つき (呉服座前)

1月2日(月) 12:00～/14:00～  
出演 めてたや

### 新春祝い「獅子舞・祭り太鼓」 (呉服座前)

1月3日(火) 13:00～/14:00～  
出演:歌舞劇団 田楽座

### 日本のあそび体験

(食道楽のカフェ横芝生広場 雨天時・無声堂)  
1月1日(祝)～3日(火)、7日(土)～9日(祝)  
1月8日は皆さんに体験していただける餅つき大会を開催!

### しめ縄づくり

(お休み処「碧水」)  
12月18日(日) 13:00～

電話でお申し込み下さい。  
定員/先着20名 (参加費無料)  
※しめ縄はお一人様ひとつずつ作っていただきます。

事前  
予約制

### 東映映画

### 『聯合艦隊司令長官 山本五十六』

公開記念展 (東山梨郡役所2階)

12月3日(土)～2月19日(日)

本年6月に明治村で撮影が行われた東映映画『聯合艦隊司令長官 山本五十六』(12月23日公開)の公開記念展。

### バレンタインイベント

シニア・バレンタイン 100  
2月1日(水)～2月14日(火)

バレンタイン・コンサート

(聖ザビエル天主堂)  
2月4日(土)・5日(日)、11日(祝)・12日(日) 13:00～/14:30～

### 「アツアツぞうすいフェア」

●期間中

### 子規はいく

協力:松山市 ●期間中

### ふるさとの雛展

(東山梨郡役所1階)  
1月31日(火)～  
土、紙といった素材でつくられた、各地に伝わるひな人形をご紹介します。素材で温かみのある雛の数々が明治村に春の訪れを告げます。



鳥取流し雛



写真3 十字屋楽器店の広告① 大正6(1917)年

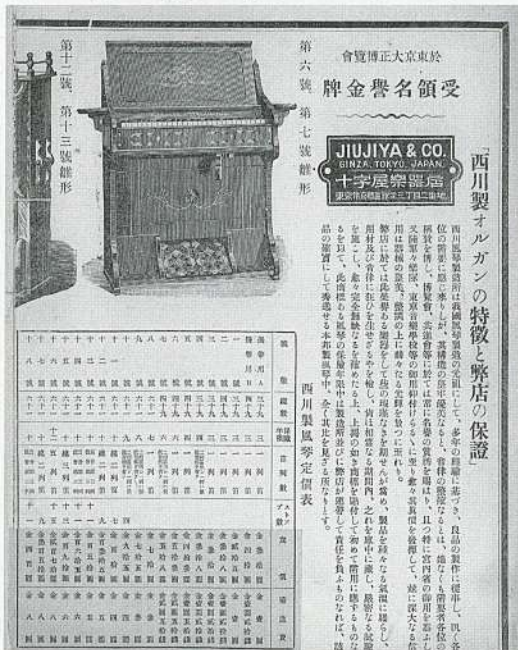


写真4 十字屋楽器店の広告② 大正6(1917)年

ンの製作へと関心を持ちます。  
海保吉之助、海保淳一らが賞を得た明治二十三(一九一〇)年の第三回内国勸業博覧会に、初めて国産のオルガンが出品されました。褒賞授与人名録を見ると西川、山葉ともに風琴を出品し受賞しており、そのほか数名の製作者も風琴で受賞しています。この他にも出品したものの、賞を得ることができなかった製作者もいたことを考えると、試作を始めて数年後にはオルガンの国内での生産が急速に進んでいることがわかります。

しかし国産オルガンの製作者たちは、運営資金や販路は独自で開拓しなければならず、この役割を担ったのが学校用図書販売する出版社や大手の楽器店です。

山葉寅楠によって創立された日本楽器製造株式会社や西川虎吉の西川風琴製造所は、大手の出版社や書店の出版を受けることで、その資金と販路を確保することができました(写真3、4)。しかしながら必ずしもすべてのオルガン製作者が山葉や西川のような関係にあつたわけではなく、一方で、教育用品の販売店の下請けとしてオルガンを製造し続けた例もあつたようです。現在残っている「海保」という名が記されたオルガンの数が非常に少ないことから、今回ご紹介したオルガンは、一時的に三省堂の下請けとして海保家の人々が製作したものと考えられます。

「三省堂の百年」によると、明治三十七(一九〇四)年に三省堂器械標本部が創設され、最盛期には小石川区(現在の文京区) 西江戸川町に標本部模型工場及び楽器工場が建てられています。おそらくこの時、和楽器の職人として博覧会で賞を得ていた海保家の人々が、その腕を買われ三省堂の下請けとしてオルガン製造を請け負ったと考えられます。しかし大正二(一九一三)年、工場が火災に見舞われたことを契機に、機械標本部が廃止となりました。詳細な記録が残っていないため推察の域を出ませんが、この機に三省堂は楽器製造事業から撤退したと考えられます。

このように、日本の伝統的な和楽器職人の手によって製作が始まったこのオルガンには、音楽教育の進展や、オルガンという楽器を国内に普及させるために取り組んだ人々の歴史が刻まれています。

## 刻印からみる 国産オルガンの製造と普及

●聖ヨハネ教会堂 2階(1丁目6番地)



聖ヨハネ教会堂二階の礼拝堂には、現在九台のオルガンが展示されています。今回取り上げるオルガンは、リードオルガンとよばれるものです(写真1)。  
蓋をあけると、中央に漢字で「大日本東京三省堂」、「海保製作」とあり、左右にローマ字で「Manufactured by M.Kaiho」、「Sold by Sanseido」という刻印が見られます(写真2)。赤井勲氏によると、このオルガンは現在も辞書や学校図書を出版・販売している三省堂が販売した学校用のオルガンで、明治二十三(一九一〇)年の第三回内国勸業博覧会で和楽器を出品して賞を得た海保吉之助、海保淳一<sup>※1</sup>ら、海保家の人々によって製作されたとされています<sup>※2</sup>。

写真1 リードオルガン

このオルガンの刻印が、学校用図書販売する出版社がオルガンの販売を担い、和楽器を製作する職人がオルガンの製造を手がけたことを示しており、そのまま国産オルガンの製造と普及の歴史の一端と重なります。



写真2 [Manufactured by M.Kaiho] [大日本東京三省堂 海保製作] [Sold by Sanseido]